

授業科目名 <英訳>	漢文学Ⅰ The Chinese Classics I		担当者氏名	人文科学研究所 准教授 宮宅 潔			
群	人文・社会科学系科目群	系列	芸術・言語文化系（基礎論・文学）				
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義
開講期	前期	曜時限	火1	配当学年	全回生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】							
司馬光『資治通鑑』秦紀選読							
<p>『資治通鑑』の秦紀からまとまった記事を選び、その読解を通じて古典漢文を読む力を養う。同時に、始皇帝による統一へと向かう歴史状況や、歴史観の変遷についても講義し、中国古典に対する理解を深める。</p> <p>北宋の司馬光によって編纂された『資治通鑑』は、中国の代表的な編年体の歴史書として名高い。それがカバーする時代は戦国時代から北宋成立の直前までに及ぶが、本講義では特に秦紀（前255～前207）を取り上げ、そこに収められた記事を選読する。</p> <p>秦紀には、群雄割拠の戦国時代から始皇帝による統一へと向かう時代の歴史が描かれる。一人の「皇帝」が中国に君臨するという、伝統中国の基本パターンが構築される、非常に重要な時代である。当時の時代背景についても講義し、それを通じて中国学の基礎知識を身につけることを期待したい。</p>							
【授業計画と内容】							
<p>第1週 ガイダンス 第2～14週 資治通鑑選読（前期では秦紀一を読了することを目指す。）</p> <p>テキストとして「標点本」のプリントを配布し、受講者には毎回それを訓読してもらう。訓点に頼らず、古典漢文の構造を理解しながら、それを読解する力を身につけて欲しい。また上に述べたとおり、これと併せて当時の時代背景についても講義する。</p> <p>さらに『資治通鑑』とその原史料、とりわけ司馬遷『史記』の記事とを比較することで、歴史記述における態度の相違や『史記』のユニークさについても言及する。この講義を通じて、古典漢文を味読する楽しさを体験して欲しい。</p>							
【履修要件】							
高校で漢文の授業を受けていることが望ましい。							
【成績評価の方法・基準】							
<p>平常点（授業中の発表、受講態度）と定期試験を組み合わせで評価する。評価の60％は平常点による。</p> <p>講義には毎回十分に予習した上で、漢和辞典を携帯して参加すること。準備を整えて参加しないものは、たとえ出席し発表したとしても、それは平常点にはカウントされない。</p>							
【教科書】							
使用しない プリントを配布する。							
----- 漢文学Ⅰ(2)へ続く -----							

漢文学Ⅰ(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[その他(授業外学習の指示等)]

まず漢和辞典を地道にひいて、自分なりに内容を理解したうえで授業に参加すること。「正解」よりも地道な努力の跡を評価したい。

授業中、わからないことについては積極的な質問を期待する。研究室に来る際には事前にメールで連絡した上で訪問すること。メールアドレスは講義初回に指示する。